

言語活動と異文化理解能力

言語教育における相互文化性について

細川 英雄（早稲田大学・Paris4CELTA）

<http://www.gsjal.jp/hosokawa/index.html>

2008年5月31日 ローマ日本文化会館

言語活動と異文化理解能力

言語教育における相互文化性について

はじめに——複言語・複文化主義と言語教育

I. 日本語教育の構造を振り返る

II. 日本語教育の新しい展開

III. 言語文化教育学の構築へ

展望的結論——実践研究の意味と教育観の対話

はじめに

複言語・複文化主義と日本語教育

- 多言語・多文化主義 multi——社会を対象
- 複言語・複文化主義 pluri——個人を対象

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages, ヨーロッパ共通参照枠, 2001) との関係

- 言語と文化は一体のもの
 - 文化を学ぶこと = 社会を学ぶこと
 - 社会の多様性・複雑性を知る
-

I 日本語教育の構造を振り返る

言語コミュニケーション能力

```
graph TD; A[言語コミュニケーション能力] --- B[社会文化能力 (文化知識) ステレオタイプ]; A --- C[場面認識能力 (文章・談話) ロールプレイ]; A --- D[言語能力 (語<文) 語彙・文型];
```

社会文化能力
(文化知識)
ステレオタイプ

場面認識能力
(文章・談話)
ロールプレイ

言語能力
(語<文)
語彙・文型

I 日本語教育の構造を振り返る

- 語 > 文 > 文章・談話という構造積み上げの発想
 - 他者とのインターアクション・話者の内省は？
 - 情報における言語と文化の区別は何か
 - 「異文化」への順応、適応強制のリスク
 - 「異文化理解能力」の限界
 - 新しい発想による概念形成が必要
-

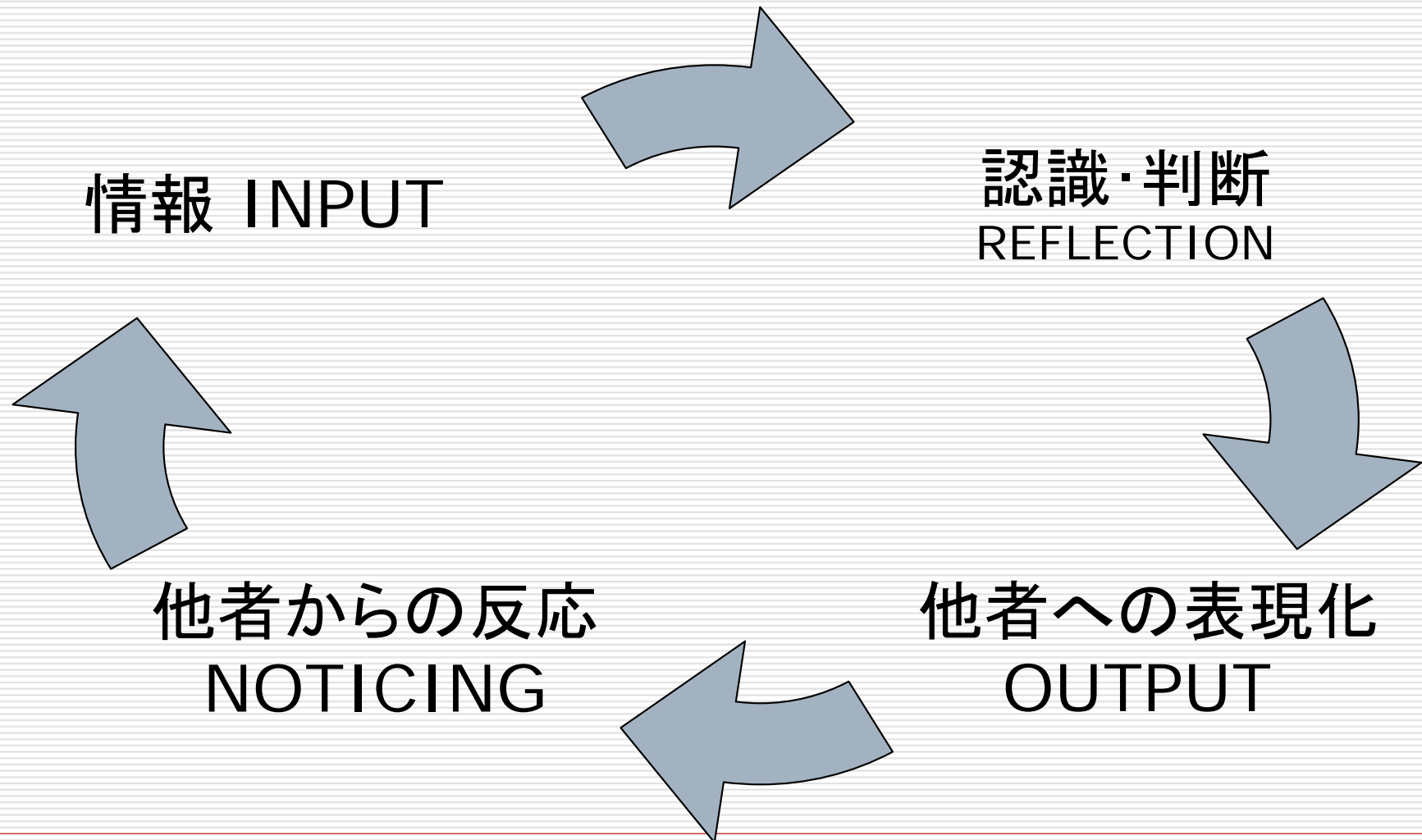
II 日本語教育の新しい展開

- テーマ／主題／動機＞文章・談話＞文＞という情報の相互交流
- 言語と文化の情報区別を取り払う
- 話者の内省を中心に置き、他者とのインターアクションを活性化させる
- 「文化」の境界を個人化する
- 活動の循環を螺旋状（スパイラル）に描く



「相互文化性」の形成へ

II 日本語教育の新しい展開



II 日本語教育の新しい展開

- 行為者acteurとしての学習者の活動
 - 自分の考えを表現する。
 - 他者の考えを聞く。
 - 自分の考えを更新する。
 - 複数の他者と自分、社会との関係について考える。
 - 活動は、他者との交流によって活性化する。
-

II 日本語教育の新しい展開

- 自己と他者の関係について考える
 - 社会の多様性・複雑性を考える
 - 行為者のアイデンティティ構築（再・共）へ
（「文化」はアイデンティティの中にある）
 - 教室は、アイデンティティ調整の場、そのような環境をどうつくるか
 - 言語教育が育成する個人とは？
-

II 日本語教育の新しい展開

「総合活動型日本語教育」の実際

考えるための日本語

問題を発見・解決する力とは何か

2003年3月製作

早稲田大学大学院日本語教育研究科
言語文化教育研究室

総合活動型ビデオの紹介

□ 教室活動の手順

1. 興味関心のあるテーマを選ぶ
2. 対話活動
3. 話し合い（グループ活動）
4. 結論を出す（グループ活動）
5. 相互自己評価

□ Video 1 全体説明：このクラスでは何をするのか？

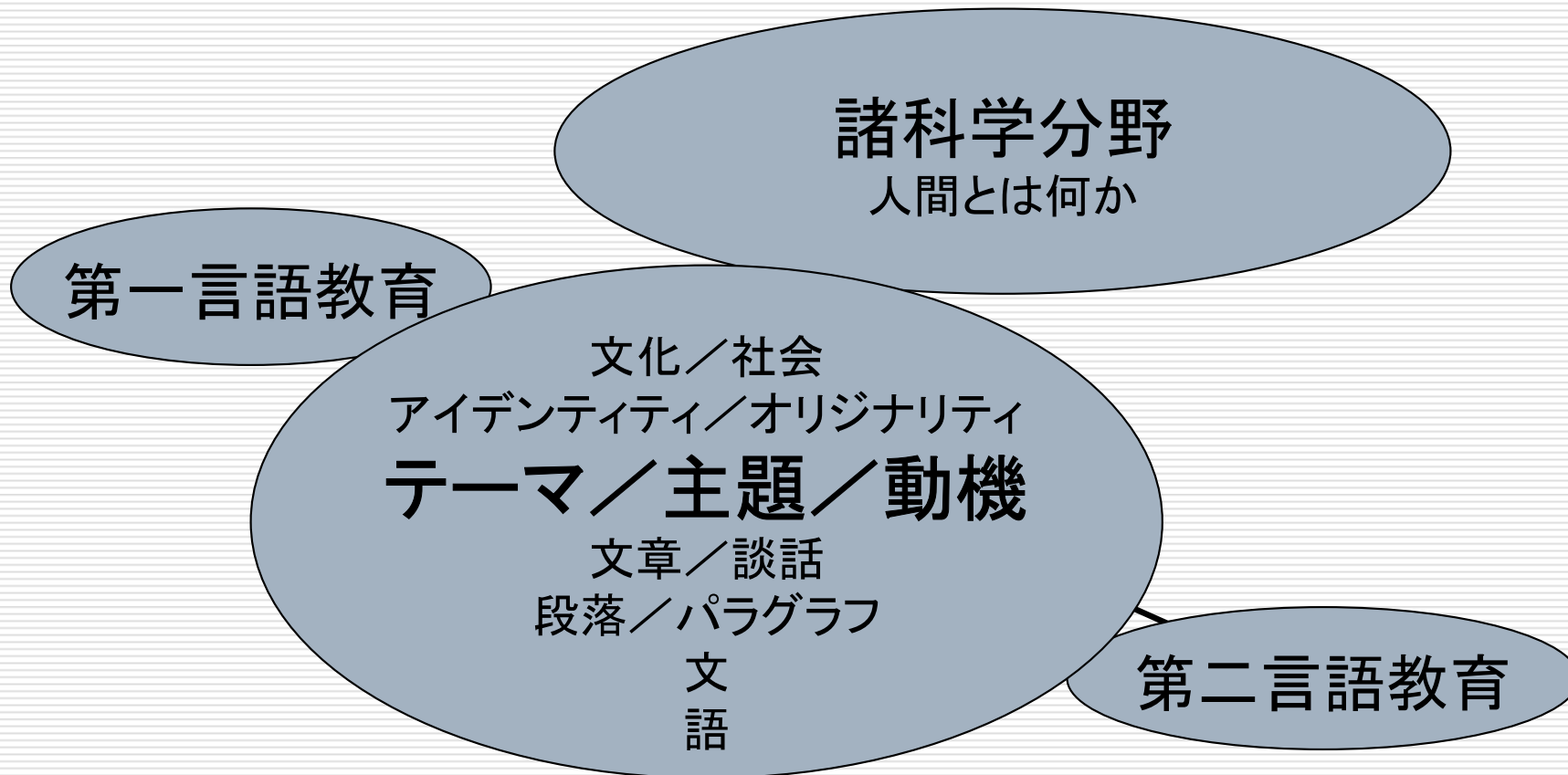
□ Video 2 グループ活動例：ドイツ人学生の場合

□ Video 3 学生による評価

III 言語文化教育学の構築へ

- 教室は一つの社会
 - = 行為者acteurとしての日本語学習
 - 社会における言語使用とは何か
 - = 自ら選び取る言語とその活動をめざす
 - 自らのテーマの構築とその展望への期待
 - = 準備・応用を目的としない領域の確立へ
 - = 母語・第2言語を超えた方法論の確立へ
-

III 言語文化教育学の構築へ



展望的結論

文化構築主義の構想

- 文化本質主義 nation/ethnienationalisme
 - 文化相対主義 International/transcultural
 - 文化構築主義
 - Inter-trans-personal culturel
→「相互文化性」の形成へ
-

展望的結論

文化構築主義の構想

- さまざまな状況の中の日本語学習
 - 日本語／非日本語社会での学習
 - 成人教育と年少者教育（移民教育）
 - 学習者の動機・ニーズと教室活動
 - 言語学習の目的と方法
 - 何のための学習／教育か＝教育観の対話
 - 実践研究（実践＝研究）の意味
 - 複言語・複文化主義は何をめざすのか
-

言語活動と異文化理解能力

言語教育における相互文化性について

ありがとうございました。

Grazie per l'attenzione.

<http://www.gsjal.jp/hosokawa/>